

自然も人も、やさしいね

「こまつ もん」

2015
植樹祭
特別号

こまつもん 2015 植樹祭特別号

2015年4月発行

発行/小松市経済観光文化部環境王国こまつ推進本部 TEL: 0761-24-8078

編集/チームリナルこまつ

特集

太古のままの姿を残す湖
木場潟が小松にもたらしてくれたもの

小松の町衆文化の象徴、

お旅まつりと曳山子供歌舞伎



環境王国こまつ

石川県小松市長
和田 慎司



小松市は、加賀平野の中心に位置し、日本海と霊峰白山に囲まれた水と緑の豊かなまちです。また、古くより広域の拠点として栄え、現在は、歴史文化やものづくり力などポテンシャルの高い地域資源を活かし、「乗りもののまち」、「歌舞伎のまち」、「科学と交流」、「環境王国こまつ」の4つのテーマで、まちのイメージアップと成長を目指しています。

小松市は北陸三県で初めて「環境王国」として認定されました。

木場潟から望む霊峰白山という日本一の眺望を誇る自然と歴史や文化に培われた安心・安全な農産物、四季折々の山海の幸を「こまつもんブランド」として全国に発信していきます。



MAP

石川県小松市

環境王国こまつ

「環境王国」とは、米・食味鑑定士協会や大学教授など有識者による「環境王国認定協議会」が、自然環境と農業のバランスが取れ、安心な農産物の生産に適した環境を認定するものです。

列車・バス・車で

東京	新幹線(北陸新幹線利用)...	3時間
	新幹線(東海道新幹線利用)...	4時間
	高速バス(八王子~小松)...	8時間50分
大阪	特急電車	2時間10分
	高速バス	4時間10分
	車	3時間30分
名古屋	特急電車	2時間10分
	高速バス	3時間10分
	車	2時間30分

※ JRの時間は最速列車の場合です。

太古のままの姿を残す湖。 木場潟が小松にもたらしてくれたもの。



木場潟は桜の名所としても知られる。3月22日には植樹祭会場の「木場潟」から記念植樹会場の「憩いの森」を結んだウォーキングコース『植樹祭メモリアルライン』が完成した。

平成二十七年五月十七日開催の、第六十六回全国植

樹祭いしかわ二〇一五の主会場である小松市の木場潟は、柴山潟、今江潟とともに加賀三湖と呼ばれ、県内で唯一千拓されずに自然のままの姿を残しており、その水郷風景は「いしかわの自然百景」にも選ばれている。特に潟越しに見る霊峰白山の姿は絶景で、白山のビューポイントとしても有名である。

多くの市民、県民に愛されている木場潟公園は、昭和五十七年に県営公園として開園。面積は四九・二ヘクタール。周辺の田園風景と調和するように整備さ



「カヌーの聖地」としての知名度も高い木場潟。(写真／木田智滋)

春の木場潟と白山。手前は特別栽培米「エコ育ち」の水田。



れ、多くの野鳥や水生植物が息している。

潟の周囲には、四つの園地が整備され一周六・四キロメートルの園路が結び、ウォーキングやジョギングのメッカともなっている。またカヌー競技のナショナルトレーニングセンターに指定されており、「カヌーの聖地」とも呼ばれている。

第六十六回全国植樹祭 プレイベントを開催

昨年の五月十八日に、開催一年前イベントとして

全国植樹祭プレイベントが木場潟公園中央園地で開催された。小松市の緑の少年団代表から苗木と花の引き渡しが行われ、谷本石川県知事や和

田小松市長らが緑の少年団と一緒にアテやトチノキなどの記念植樹を行った。

さらには、巨大な生け花オブジェの制作や苗木の無料配布、様々なステージアトラクションの他、親子らが六・四キロメートルの園路を巡る「白山眺望ウォーク」、一万人が手をつないで木場潟を囲む「スマイル木場潟」などが開催された。(表紙写真)

八月二十三日には、応援イベントとして園路に並べられた約七千個のろうそくを眺めながらウォーキングする「木場潟キャンドルナイトウォーキング」も開催され、全国植樹祭のPRを行った。

また、植樹祭に向けて、自宅や学校、企業でコナラやクヌギの苗木を育ててもらう「どんぐり・苗木のホームステイ」活動も石川県全域で行われるなど、植樹祭を盛り上げるための取り組みが各地で行われている。



どんぐり・苗木のホームステイの様子。(小松市の稚松小学校)



今年の3月7日に安宅林国有林で行われた全国植樹祭地域リレー植樹。小松・能美ブロック緑の少年団の子どもたちの他、小松市のイメージキャラクター・カブッキーも参加した。



華道家野村天圭衣（てんけい）さんの巨大生花オブジェ。(平成26年5月18日) (写真／木田智滋)



応援イベント「木場潟キャンドルナイトウォーキング」(平成26年8月23日)

小松の人々の生活を支えてきた木場潟

古代において木場潟は、潟や入り江のほとりに住む人々の魚貝などの採取の場として、その後は内陸の大杉谷の木材を舟で小松、安宅の消費地へ



小松市の木場潟に復元された舟小屋。漁業や農業のほか、人や物資の輸送に舟は欠かせない存在で、木場潟にはその舟に係留するための舟小屋が点在していた。

運ぶ木材の集散地として、常に小松の人々の生活を支えてきた。「木場」の名は、木材の集積地であったことに由来する。

昭和の中頃まで木場潟周辺のほとんどの農家は舟を持ち、木場潟に入り込んでいた無数の水路を農作物の運搬や人の移動に利用していた。木場町の辺りは遠浅で砂浜があり、木場潟は泳ぐことができるほど水がきれいだった。農家は貴重なタンパク源として鮎や鯉、ナマズや鰻などを捕っていた。それが昭和三十四年に農地の区画整理が始まり、水路が埋め立てられたことで木場潟の環境は大きく変化した。

一時は水質悪化が大きな問題となっていたが、様々な水質浄化の取り組みが行われ、その水質は少しずつ改善してきており、水草も復活してきている。



東本願寺 御影堂（明治28年竣工）

東本願寺の再建と木場潟

明治時代、火災で焼失した東本願寺の再建が行われた時、吉崎御坊に蓮如上人が来訪して以来、真宗王国と言われた加賀地域の門徒たちが自慢の巨木を寄進した。小松の大杉、日用、丸山、西俣、赤瀬などの



丸山村の献木根株（直径約120cm）『小松教区における東本願寺再建の歩み』より。



「加賀献木木遣り保存会」が再現した「加賀献木木遣り」。

木場潟の存在が生み出した古代・小松の高度で豊かな木の文化

縄文時代の早期、今から一万年前、木場潟、柴山潟、今江潟の加賀三湖はまだ海の中にあり、その後、海退が進んで弥生時代のおよそ二千年前には加賀三湖が形成されたと言われている。初期は一つの入江だったものが、木場潟、柴山潟、今江潟の順で形成された。

現在のJ R小松駅東側で発見された八日市地方遺跡は北陸を代表する弥生時代中期の大規模集落遺跡で、出土した大量の土器や石製品、木製品のうち一〇二〇点が国の重要文化財に指定されている。

日本海側の重要な古代遺跡は海に面したラグーン（潟）の側にあり、その例にもれず、八日市地方遺跡は当時は今のJ R小松駅付近まで広がっていた木場潟（当時は加賀三湖として一体）の中に半島のように突き出すように位置していた。

集落が大規模になると人口が爆発的に増えるため、生活に必要な様々な物資の流通のために



国の重要文化財指定品の一部／撮影 小川忠博



ジョッキ形木製品



木製匙（さじ）

潟の存在はとても重要な要素であった。

八日市地方遺跡から出土した木製品に使われた木の種類は八〇種類以上に上り、用途に応じて木を使い分けていたことがわかっている。木材は建物にも使われていて、大きな木材は木場潟を利用して能美丘陵から運んでいたと考えられている。

当時は石の道具で木を削って

いたが、木を選び、木目を読んで加工する技術は現在の木工の人間国宝も驚くほど非常に高度なものである。

弥生時代において、現在の山陰地方から北陸にかけての日本海側の地域は先進的な木工技術を有していて、八日市地方遺跡はその東端にあたり、八日市地方遺跡の存在は、東日本への文化の伝播に非常に重要な役割を

担ったと言われている。

飛鳥時代以降には、木場潟のほとりで渡来人を中心とした工人集落が誕生し、木場潟対岸の丘陵地は日本海側屈指の製陶コンテナートとなる。

弥生時代以降、高度な技術を持った古代史上重要な地域となったのは、木場潟と梯川という水の恵み、豊富な森林資源、白山というランドマーク、そして碧玉などの豊かな地下資源の産出地であったことが大きい。

やがて、中世になり、八日市地方遺跡から約五キロメートル東に加賀国の国府が置かれることになったのも、木場潟と梯川、そして白山の存在が大きく関係していると考えられる。

木場潟無くしては、今につながる小松はあり得なかったのである。

●八日市地方遺跡の出土品は小松市埋蔵文化財センターで見学いただけます。
小松市原町ト77-8
TEL:0761-47-5713

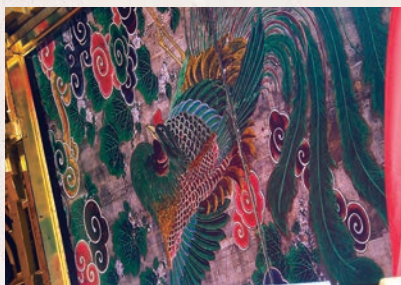
※全国植樹祭記念公開展
「木・木・考古学—木で学ぼう！こまつの原始—」
3/19(木)～6/21(日)を予定。



大文字町の曳山は那谷寺造営にあたった加賀藩の名匠・山上善右衛門の流れを組む工人達が建造し、那谷寺本殿を再現したといわれている。那谷寺三重塔の壁板彫刻を模した8面の牡丹と唐獅子の彫刻が素晴らしい。



西町の曳山は寛政2年(1790)に、加賀藩の名匠・山上善右衛門の流れを組む大工の棟梁・藤山清九郎が建造。唐門式の風格ある様式が美しい。



寺町の曳山の天井。寺町出身の江戸時代の九谷焼の名工、北市屋平吉の描いた鳳凰図は必見。



京町の曳山は寛政4年(1792)建造。京町出身の彫刻家村上鉄堂の手によるむしこの上の腰彫と、見送りの彫刻が見事。

小松の町衆文化の象徴として。

今のようにテレビもインターネットもゲーム機もない時代の人々は、今からは想像できないほど歌舞伎に夢中になっていた。

江戸の中期、加賀絹と呼ばれる絹織物で栄えた小松は、その財力と前田利常公が小松に入城して以来蓄積してきた職人の技により、小松独特の豪華な曳山を造り上げ、子供歌舞伎を上演するようになった。当時の小松

の人口は一万人足らず。その町に多い時で十数基もの曳山が作られ子供歌舞伎が上演されていたというから、いかに小松の町衆の財力が豊富だったか、また江戸時代の人々が歌舞伎に熱狂していたかを想像できる。

その歌舞伎への熱狂は時代を経て昭和の時代まで続くが、戦後、全国各地に映画館が作られ、やがてテレビが普及するようになると歌舞伎への熱は冷めていく。一時、観客は一人二人と数えられるほどしか集まらなかった時代もあったそう。

しかし高度成長期が終わり、人々がモノによる豊かさから心の豊かさへ視点を移すようになると、祭りに人が戻って来た。

少子高齢化が進み、農村部だけでなく都市部でも祭りを維持することが難しくなってきた中、町衆文化を引き継ぐ小松の町の人たちの情熱、誇り、心意気、そして小松市や地元企業などの支援により近年の曳山子供歌舞伎は盛況である。

百聞は一見に如かず。まだ小松の曳山子供歌舞伎を体感したことがない方は、ぜひその目とその耳で感じていただきたい。

曳山八基曳揃え

現在、小松には八基の曳山があるが、以前は十基あったものが昭和七年の大火で二基が失われた。もっと古くは十数基もあったとも言われている。お旅まつりの祭礼として曳山を出すかどうかは各町が独自に判断していたが、子供歌舞伎を上演するには多大な費用と人力が必要で参加する曳山がだんだん少なくなってきたため、昭和二六年以降、毎年二町が当番で曳山を出すことになり、平成五年からは当番以外の町も歌舞伎は上演しないものの、曳山を出し、八基が勢揃いするようになっていく。



小松の町衆文化の象徴、お旅まつりと曳山子供歌舞伎。

霊峰白山を望む加賀平野の水田に早苗が植えられ、里山の緑が色濃くなる。風薫る五月の中旬「歌舞伎のまち」小松は町全体が劇場となり、躍動する。

二〇一六年に曳山誕生二五〇年を迎える曳山子供歌舞伎。子どもの歌舞伎だからと侮ってはいけない。

小松の中心部の交差点に八基の曳山が各町から集まってきた。大勢の観客が見守る中、拍子木の小気味良い音と「ヨーイヤハッスン」という音頭で、大きな曳山が動く。「ハッスン」とは「八寸(約三〇センチ)」のことで、拍子木に合わせ八寸だけ動かせという合図だ。菟橋神社と本折日吉神社の祭礼として慶安四年(一六五二)から三六〇年余りの歴史を持つ「お旅まつり」。この祭りの華は何と言っても、明和三年(一七六六)に始まったと言われる曳山子供歌舞伎だ。

夕日に空が染まり、八基の曳山がライトアップされる中、この年の二つの当番町の曳山を舞台に華麗な時代衣装に身を包んだ子供たちが浄瑠璃と三味線に合わせて歌舞伎を演じる。

子供たちは祭りの数ヶ月前から台本を読み始め、一カ月ほど前から毎日厳しい稽古に励む。だから子供の歌舞伎だからと言って侮ってはいけない。演技のレベルはかなりのもので感動モノだ。表舞台に立つ子供たちの努力もたいしたものだが、それを支える町の大人たちの努力も一層だ。

「こまつもんブランド」に注目！

地元農産物の利用拡大と
環境王国こまつの
イメージアップの取組み

小松市では、環境王国こまつ
の「安全・安心・おいしい」の農
産物を活かして開発された商品
を「こまつもんブランド」として
認定することで、地元農産物の
利用拡大と環境王国こまつのイ
メージアップを目指している。

認定商品は平成二十七年三
月末現在で、一〇〇品を超える。
昨年の九月二十九日には、
こまつもんブランド認定審査
会が開かれ、その中から特に
優れた商品を「こまつもんゴー
ルド」として認定した。また、
同じ日に、「おみやげこまつも
んコンテスト」の審査も行わ
れ、小松市産の農産物を使用
したおみやげものとして、優
れていると評価された四品が
「おみやげこまつもん★一番
星」として表彰された。

こまつもんブランドが
果たすべき役割

フードアナリスト
里井真由美さん

こまつもんブランドの取組
みは、「食」を通じて地域や人
の繋がりを強めてくれる、素
晴らしい企画です。出品され
た皆様の店舗へ伺っておりま
すが、そこでの皆さまの熱意
はすごいと改めて感じていま
す。「地産地消」を重んじ、皆
が「こまつらしさ×おいしさ」
を追求していくことで街全体
が活性化されていくのだなど
実感しています。

おみやげこまつもんの審査
においては、「こまつらしさ」

こまつもんブランド認定審査会会長の里井真由美さん。
(1級フードアナリスト、フードライター)



こまつもんブランド
認定ロゴマーク。

【こまつもんゴールド】マイルドトマトカレー（JA小松市）、大麦バウム（ル ミュゼドウ アッシュ
KANAZAWA）、六さん健康おにぎり（道の駅こまつ木場潟）、純米自然酒 蛸舞（東酒造）、農家ま
りちゃんの手作りトマトジャム（まるしょう）、小松うどん今昔輪子（中石食品工業）
【おみやげこまつもん★一番星】こまつのじわもんベジおやつ にんじんチーズケーキ（S.O.T.
cafe）、大麦を使ったにんじんのスープ（JA小松市）、神泉カブッキー本醸造（東酒造）、シャンデュ
オルジュ（あんずの木）
※こまつもんブランド認定商品についてのお問い合わせは、環境王国こまつ推進本部 TEL:0761-24-
8078 まで。

はもちろん、おみやげとして
持ち帰りたいとおもわれるも
のであるが重要です。おい
しさはもちろん、今後は「パッ
ケージ」や「ネーミング」「ア
ピール度の高いPOP」など
も考慮された品が増えること
を期待しています。

おみやげの強みの一つは、
そのもの自体が人の手に渡
り、良さを拡散できる事です。
誰からも愛される商品を作る
には、若い方から年配の方ま
で様々な分野の方々が一丸と
なり、また官民が一体になり
強化していくことがとても重
要であり、その中で小松が地
方創生の見本となるよう、私
も一緒に取り組んで行きたい
と思っています。

ることが奇跡でした」と絶賛さ
れているが、今回は同店のシェ
フパティシエ永田欽哉さんに、
小松市産大麦を使った今回の商
品について語ってもらった。

シェフパティシエ
永田欽哉さん

これまで洋菓子業界では大
麦を素材として使うことはほ
んど無かったのですが、小
松市さんからご提案いただき、
辻口と大麦ピュレの特性を
聞かせていただいたいて、洋菓子
に使ったらすごいものができ
るのではという予想はしてい
ました。とにかく初めて使う

素材だったので実際に商品に
なるまでの約半年間で通常の
倍以上の四〇回ほど試作を重
ねました。小麦や米粉なら今
までの経験とデータの蓄積が
ありますが、初めて使う大麦
では仕上りのソフトさと固
形力のギリギリの線を見極め
るのに時間がかかりました。
最終的にはソフトな口当たり
が特徴の良い商品に仕上がっ
たと思います。大麦がバター
や卵の風味を邪魔しない
のも良いですね。パッ
ケージにもこだわりの、
大麦の豊かな穂を連
想させる高級感のあ
るゴールドに仕上げ
ました。



大麦バウムはルミュゼドウアッ
シュ KANAZAWA のアトリエで専
任のパティシエがつきっきりで丁
寧に焼き上げられる。



スーパーパティシエも絶賛した
小松市産大麦ピュレの魅力

「こまつもんゴールド」に認定
された「大麦バウム」を製造す
る辻口博啓さんのパティスリー
&カフェ、ル ミュゼドウアッ
シュ KANAZAWA。辻口さ
んは自身のツイッターで「石川
県にこんな素晴らしい大麦があ



ル ミュゼドウアッシュ KANAZAWA の
シェフパティシエ、永田欽哉さん。



ルミュゼドウアッシュ
LE MUSEE DE H KANAZAWA
金沢市出羽町 2-1 石川県立美術館内
TEL:076-204-6100





JA 小松市のトマトカレーなど、地元グルメを空港内で手軽に味わうことができる空カフェ。



のどぐろ干しなどの海鮮品も人気。



コマツの建設機械「コマツ930E」をイメージした九谷焼超大型ダンプトラックモデルが目を引く。



週末に行われる地元業者による対面販売では、お客様の生の声を商品開発の参考にしている。



大勢の観光客、地元客で賑わう道の駅こまつ木場湯。

空の駅こまつ
小松市浮柳町ヨ 50 番地
小松空港ターミナルビル内
TEL 0761-24-0831
営業時間 / 空の駅こまつ (1 階) 7:15 ~ 19:35
空カフェ (2 階) 7:05 ~ 19:45 年中無休

となつてゐる。小松市でも二〇一〇年四月に、「道の駅こまつ木場湯」がオープンし、連日多くの地元客、観光客が訪れ、地産地消、地産他消、そして小松の観光物産情報の発信拠点として大きな役割を果たしている。

小松空港にオープンした「空の駅こまつ」は「道の駅こまつ木場湯」と合わせて、小松の魅力をより効果的に発信する拠点となることが期待されている。



空の駅こまつ



◀観光と物産情報が満載の「小松観光メール便」が好評。

二〇一三年の十月一日、小松市の食と観光情報を集めたアンテナショップ「空の駅こまつ」が小松空港ターミナルビルでオープンした。小松空港は年間二〇〇万人が利用する北陸の空の玄関口。その好立地を活かし、環境王国に認定されている小松市産の農産物を加工した様々な六次産業化商品の他、地元農産物、日本酒や日本を代表する伝統工芸品の九谷焼などの七百点を越える豊富な品揃えと、観光情報コーナーを設置することで、小松の幅広い魅力を発信する。週末には地元業者自らが店頭にて対面販売を実施し、賑わいを見せている。また二階には「空カフェ」もあり、小松市産のお米など地産地消にこだわったメニューを提供する。

オープンから一年間の利用者数はカフェを併せて十万人を越え、売上も約一億円と好調だ。

「道の駅」が一九九三年に登場してから二〇一三年でちょうど二〇年。「道の駅」は地域産業振興の拠点、人びとの交流の拠点として、地域に根差しながら進化を遂げ、地域の人だけでなく多くの観光客も惹きつける重要な存在

六次産業・地域産業・交流の拠点としての期待を担って



トマトカレーやトマトカレーおかきなど JA 小松市のトマトの加工品は、小松空港の「空の駅こまつ」や「道の駅こまつ木場湯」などで購入可能。



道の駅こまつ木場湯内のレストランではフレッシュなトマトの角切りが乗ったトマトカレーも人気。

このトマトカレーには、生産量の二、三パーセント出してしまう規格外のトマトが使われており、その有効活用により農家の収益アップにもつながっている。

JA 小松市施設園芸部会では「今まで見栄えが悪くだけで市場に出荷できなかったトマトを有効活用してもらっているのはとてもありがたい。お陰様で小松では都会からUターンで農家をする人も増えているし、年配者も若い人もお互いに頑張っていて小松の農家は元気がある。今後も小松市の六次産業化プロジェクトに期待しているし、協力もしていきたい」と言う。

JA 小松市では、トマトカレーの他にもトマトを使った万能ソースや、ヒット商品のトマトカレーの味を凝縮したトマトカレーおかきなど、トマトを活

小松市は石川県最大、北陸でも有数のトマトの産地である。主な品種は「桃太郎はるか」と「りんか409」で、五十九軒のトマト農家が栽培し、年間一五〇〇トンを出荷している。

小松のトマト栽培はハウスでの養液栽培が主流。地面に苗を植えず、熱処理したみ殻を入れた容器に根を張らせて養液肥料を与える。この方法だと農薬を大幅に減らし、トマトが効率的に栄養を吸収し、味が濃いトマトが育つ。

JA 小松市施設園芸部会の北会長は、「小松のトマト農家は常に勉強会を開き、お互い切磋琢磨しながら良いトマトを作ろうと努力しているから、技術が高く、養液栽培による低農薬のトマトは美味しくて酸味とコクのバランスが良い」と胸を張る。

JA 小松市が六次産業化プロジェクトとして北陸学院大学短期大学の食品栄養学科などと協力して開発し、平成二十一年に発売を開始したトマトカレーは、その翌年にオープンした道の駅こまつ木場湯での販売も追い風となり、たちまちヒット商品となった。平成二十二年には農林水産大臣賞を受賞し、平成二十六年にはモンドセレクション銀賞を受賞。現在はマイルド、ヘルシー、プレミアムの3種類を販売し、今年三月までの累計で三十七万個を売り上げている。

トマト栽培の ICT 化に取り組む本田農園の本田雅弘さん。



用した加工食品を次々と開発しており、この五月には大麦ピュレを使用したトマトスープの発売も予定している。

トマト栽培の ICT 化がスタート

大手建機メーカーのコマツ、JA 小松市及び小松市の連携事業「こまつ・アグリウェイプロジェクト」では現在、小松とまとハウス栽培の ICT 化に取り組んでいる。これまではベテラン農家の知識や経験に頼っていた作業を、ハウス内に設置したセンサーから収集したデータを基に分析することで、生産工程の改善や生産性の向上につなげようという試み。この ICT 化により次世代農家の育成や、産地力の強化が期待される。



スマートフォンでハウス内の状況が確認できる。



農家の情熱がぎゅっと詰まった小松のトマトはずっしりと重く、味が濃い。



JA 小松市野菜集出荷場で朝採れトマトが選別され、県内や京阪神の市場に出荷される。

全国へ、そして世界へ。小松市産米のブランド力アップ



霊峰白山と
小松人気質が育てる
小松市産のお米

石川県の南部に位置する小松市。市の東側には霊峰白山からつらなる山々がある。小松市を含めた加賀平野の土壌は、白山の噴火活動で降り積もることで形成されたもので、白山連峰の雪解け水が伏流水となり、自然のミネラルを平野部に満たしてくれる。
その豊かな環境と、農業を愛し、粘り強い小松人気質が、おいしい小松のお米を育てるのだ。



環境王国部門で特別優秀賞を受賞した西太兵衛氏。(第16回大会)



国際総合部門で金賞を受賞した護国寺生産グループの竹村敏則氏。(第16回大会)

国内外最大規模のお米コンクール
第十七回
米・食味分析鑑定コンクール
国際大会を小松で開催！

米・食味鑑定士協会が平成十二年から行っている世界一の米の生産者を決めるコンクールが、今年の十一月二十二日、二十三日の両日、こまつ芸術劇場うららを会場に開催される。

昨年の十一月に青森県田舎館村で行われた第十六回大会では、小松市五国寺町の護国寺生産グループがコンクールの最高栄誉の賞である国際総合部門で金賞を受賞。また、環境王国認定自治体の中から選ばれる環境王国部門でも小松市高堂町の西太兵衛氏が特別優秀賞を受賞している。

J・A小松市と小松市では、毎年小松市産米を対象とした「環境王国こまつ米食味コンクール」を開催してきたが、今年は国際大会金賞受賞プロジェクトを発足させ、第十七回大会での小松市産米の連続金賞受賞とブランド力アップを目指している。

中山間地の田んぼを守り、
海外へも進出する注目農家

有限会社ジャパンファーム
代表取締役社長
生水敏雄さん
小松市那谷町リ56番地
TEL 0761-65-3308
<http://jfarm.jp/>



山あいの田んぼの前で若い社員たちと。右から三番目が生水さん。

小松市の中山間地域、那谷町で代々農業を営んできた農家の四代目として生まれた生水さん。昭和四十年、生水さんが高校三年生の時にお父さんが他界し、お母さんと二人で農業をするようになって、将来は合理的で大規模な農業を目指さないとダメだと感じていた。

法人化したのは平成元年。当時はまだ食糧管理法制度の下だったので、米を自由に売ることはできなかったが、将来は自分で丹精込めて作った米を直接消費者に届けたいという思いがあり、その思いに先行した法人化であった。

平成八年に食糧管理法が廃止される。生水さんは「食糧管理法が廃止になった時は、本当に嬉しかった」と言う。

その後、人の紹介で東京の百貨店との取引が始まり、お客さんが少しずつ増えて来た。お客さんが増えると百貨店も喜んでくれ、そこからまた新しい百貨店との取引も生まれた。

生水さんの稲づくりは、いい土づくりから始まる。生ワラを肥料として鋤き込んだり、有機ボカシ肥料を用いて強い土壌を作る。そして、霊峰白山から流れ出る山あいの清流がお米を美味しくする。

ここ十年ほどは香港の物産展に参加して、徐々に香港の富裕層にその味と



大人気の「藤子ばあちゃんのまごころ米」。生水さんのお母さん、藤子おばあちゃんは現在94歳。91歳まで若い人たちと一緒に田んぼに出ていた。

品質が認知されるようになり、一昨年、昨年と三〇%ほどずつ売上が増えている。「五年ほど前から日本食、日本の食材への注目度がとても高まっている」と生水さん。将来は全収穫量の二割ほどは海外に輸出したいと言う。

昨年の六月には以前からあった施設と道を挟んだ向かいにショップを開設した。自分たちで一生懸命作ったものをお客さんがどう反応してくれるか、自分で見たいという思いからだ。

若い頃に描いた農業への思いを着実に実現してきた生水さん。米を一生懸命作って売るだけでなく、中山間地の作りにくい田んぼでも守っていきたいといけない、地域を守ること使命だと言う。

昨年は環境王国こまつ米食味コンクールで金賞を受賞した生水さんだが、今年は小松で開催される米・食味分析鑑定コンクール・国際大会での入賞を目指し、米作りに励んでいる。